

ジェネリックスキルに対する意識が社会人基礎力の成長に及ぼす影響

千葉 勝仁

近年、知識基盤社会の到来により世界中でジェネリックスキルに関心が寄せられている。ジェネリックスキルは、さまざまな定義がされているが、本研究ではあらゆる職業で移転・活用可能なスキルを指す。日本ではジェネリックスキルの指標として、経済産業省が「社会人基礎力」、文部科学省が「学士力」などを作成してきた。

先行研究では、育成プログラムの作成や能力の測定尺度の作成などを研究してきた。また、ジェネリックスキルを伸ばす対象となる学生の学部、学科、性別、学年などの基本属性も研究対象とされてきた。そうした先行研究でもジェネリックスキルを学ぶ学生側の意識に注目し調査・分析を行っている研究は少なかった。そこで本研究ではジェネリックスキルの指標の一つである「社会人基礎力」に注目し大学生の社会人基礎力の育成において学生自身のジェネリックスキルに対する意識の程度がジェネリックスキルの成長に影響を与えるかを明らかにすることを目的とする。

研究手法は筑波大学の知識情報・図書館学類の情報リテラシ実習（必修科目）を受講している1年生を対象に質問紙調査を用いた2時点のパネル調査を行い、重回帰分析によって2時点目の社会人基礎力に影響を持つ要因を探った。情報リテラシ実習では学生のチームワークやコミュニケーションスキルなどジェネリックスキルの一部である能力の成長を目的としている。また、授業を受ける前に自身のジェネリックスキルを把握する機会として社会人基礎力を下地にしたPROGテストという、ジェネリックスキルを測るテストを受けジェネリックスキルに対する理解と自身の能力を把握している。質問紙では1時点目で、大学生の基本属性として住まい、部活動・サークルの所属の有無、部活動・サークル活動時間、アルバイト経験の有無、アルバイト時間、ジェネリックスキルに対する意識として自分にとってのPROGテストの意義、その意義が重要な場面、今後伸ばそうと考えるジェネリックスキルの種類を尋ね、性別、社会人基礎力測定尺度、自己効力感測定尺度は両方で尋ねた。

分析の結果、社会人基礎力と下位項目の一つであるチームワークが1時点目から2時点目の間で有意に成長していることが明らかになった。また、社会人基礎力とチームワークの成長に対して、PROGテストによって「自分の能力を把握したこと」を重要だと考えていること、アルバイト経験が有ることが正の影響を及ぼすことを明らかにした。一方、今後伸ばそうと考えるジェネリックスキルへの種類と意欲が対応する社会人基礎力の下位能力や社会人基礎力全体の成長には有意な影響を及ぼさなかった。

本研究から、学生自身のジェネリックスキルに対する意識が社会人基礎力の成長に影響することが言える

(指導教員 歳森 敦)